

高齢者の生きがい感に関する研究動向

—世代間交流との関連性—

○県立広島大学大学院 真多 えり (010457)

細羽 竜也 (県立広島大学・005039)、越智 あゆみ (県立広島大学・005018)

キーワード：地域在住高齢者・生きがい感・世代間交流

1. 研究目的

1989年に厚生省（名称当時）により「高齢者保健福祉推進十か年戦略」が策定され、高齢者の生きがいを中心に据えた社会資源やサービスの充実が図られた。1995年には「高齢社会対策基本法」が成立し、国民一人ひとりが生涯にわたって安心して生きがいをもって過ごすことができる社会を目指して、基本方針が明示されている。

高齢者の生きがいに関しては、1984年に文部省（名称当時）が「高齢者の生きがい促進総合事業」の一つとして「世代間交流事業」の名称を用いるようになり、高齢者の学習機会の促進や、地域活動の指導者等として活用する事業が推進されてきた。世代間交流を目的として実施されるプログラムは、「世代間交流事業」と称される。一度疎遠になった世代と世代をつなぐためには自然発生的でインフォーマルな交流のみでは不十分であり、熟慮された「しかけ（プログラム）」を要した世代間交流事業が必要と考えられてきた。

発表者らは、高齢者と子ども・若者の世代間交流の定義や方法、プログラム効果について先行研究を概観し、①定義には「世代間の伝承」「世代間の協働と互惠性」「世代の成長・貢献」の3つの要素が含まれること、②「互惠性」や「成長」に関わる成果は示されているが、「伝承性」「協働性」「貢献」については知見に乏しい実態を考察した¹⁾。この研究に取り組む中で、政策上では世代間交流事業を推進する目的の中心に高齢者の生きがいが掲げられていながら、先行研究で報告される生きがいには他の要因との関連の方が多く取り上げられていることに関心を持った。

本研究の目的は、高齢者の生きがい感に関する研究動向を、世代間交流との関連性に注目して概観することである。

2. 研究の視点および方法

本研究の方法は文献研究である。文献データベースとして、CiNii、医学中央雑誌を用いて検索を行った。キーワードは、「高齢者 AND 生きがい」、さらに、世代間交流と生きがいの関連性を調べるため、「高齢者 AND 生きがい AND 世代間交流」で検索した。

文献の選定基準は、①原著論文であること、②本文が掲載されていること、③国内における研究・実践報告であること、④2020年から2025年までの直近5年間に刊行されていることとした。除外基準として、施設の報告、学生や専門職による活動記録は除外した。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会倫理規定を遵守したものである。本研究に関して、開示すべき COI はない。

4. 研究結果

生きがい感もしくは生きがいの定義に着目すると、執筆者がそれぞれに定めており、統一された定義は見当たらなかった。先行研究の定義や国語辞典から引用したもの、調査結果に基づいて定義したものなどがあり、生きがいの定義や意味に触れていない文献もあった。生きがいと主観的幸福感との相違点を取り上げた文献では、「生きがい概念」は主観的幸福感より広範な概念で、関係性では「社会的」の方向に広がりを持っていると指摘されていた。また、「生きがい」の概念分析を試みた文献もあった。

生きがい感を調べる方法には、生きがいを感じるものの有無を 2 件法で尋ねる方法と、「高齢者向け生きがい感スケール (K-1 式)」²⁾ など既存の尺度を用いるものがあった。

高齢者の生きがいに関わる論文をレビューして、内容を分類した文献もあった。当該文献では、「生きがいの概念を解明した研究」「生きがいの関連要因をテーマにした研究」「生きがい支援に関する研究」「生きがいの測定尺度を開発した研究」の 4 つに分類されていた。

「生きがいの関連要因をテーマにした研究」に分類された文献では、「社会参加」や「うつ」は共通項目として挙げられていたが、「世代間 (の) 交流」が挙げられていたものは 1 件のみであった。その 1 件は、大都市に居住している在宅高齢者の生きがい感の現状を調査・把握し、生きがい感に影響を与えている様々な要因を分析しており、「世代間の交流」得点が高いほど、生きがいを感じやすいことが明らかにされていた。

5. 考察

本研究を通して、生きがいに関しては、現時点で合意された定義はないことが確認できた。「生きがい感」の関連要因については、「社会参加」や「うつ」は共通項目として挙げられている一方で、「世代間交流」を挙げている文献はわずかであることも確認することができた。発表者らは、地域社会において高齢者が役割を発揮する機会の一つとして世代間交流事業に着目している。今後は、地域在住高齢者の生きがい感が高まる要因として、世代間交流事業が関連することの知見を重ねていきたい。

【文献】

- 1) 真多えり・細羽竜也・越智あゆみ(2025)「地域在住高齢者と子ども・若者の世代間交流の定義及び研究動向に関する文献レビュー」『人間と科学：県立広島大学保健福祉学部誌』25(1), 21-33.
- 2) 近藤勉・鎌田次郎(2003)「高齢者向け生きがい感スケール (K-1 式) の作成および生きがい感の定義」『社会福祉学』43(2), 93-101.